

教育課程審議会社会科部会議事録一 要約

一、日時 昭和二十八年三月三日 午後一時三〇分

一、場所 文部省第一会議室

一、出席者 大石、黒川、扇谷、勝田、石田（壮）、野口

一、出席者 佐藤、山地、滝沢、吉野、小沢、村本、黒沢

一、大島幹事より事務的経過報告、部会長の選出について諮る。

一、部会長は、委員多数のすいせんにより大石譲氏に決定。

一、大石部会長より、初等中等分科審議会におけるこれまでの審議内容について一般的説明

保柳幹事よりプリント「社会科の改善、特に道徳教育

地理歴史教育について（初等中等両分科審議会で討議

されたことのまとめ」を中心にして説明あり、各委員、特に臨時委員より次のような諸点につき質疑があ

つた。
○ 地理や歴史を体系づけるといふのは、どういう意

意味か。

○ 社会科になつてから、地理的に見たり、歴史的に考へたりすることがおろそかになつたといふのはどういふ意味か。

○ 小学校五、六年から地理、歴史に分化するのは児童の立場ではないといふが、何か具体的資料があるのか。

○ しつけの低下を社会科だけの責に帰することは妥当であるか。

○ 中学校における道徳的生活に関する单元とは、具体的にどのようなものを意味するか。

これらについて、大石部会長、保柳幹事より、初等中等分科審議会でのような意見もあつたという程度に了解されたいとの答弁があり、結局専門家の集りであるこの部会で今後これらの点について十分しかもかなり具体的に改善案を研究することに意見の一致をみた。

一、次回は、初等中等分科審議会では参考意見として述べられたような諸点について、社会科部会としてさらに検討、話し合いを行う。